

命

の大切さ、

生きる意味について、私たちは考える。

今日という日は二度とこない。大切に生きよう！

”山武南中学校全校道徳講演会

“



12月21日、山武南中学校（森谷英一校長）で、生と死を通して「いのちの大切さ」「生きることの喜び、尊さ」を学ぶ全校道徳講演会が行われました。

昨年3月、東日本大震災が起こり、多くの人々の命が奪われました。さっきまで一緒にいた家族や友が一瞬に…。

わたしたちは朝起きて、ご飯を食べ、学校へ行って勉強して、友達と遊んだり、けんかしたり当たり前の生活を送っています。それができるといふことは、生きているから、命があるからできること。東日本大震災は、わたしたちにそのこと

を改めて気づかせてくれました。生徒も、震災を機に今まで以上に「生と死」について意識することができたのではないのでしょうか。

今回は、シンガーソングライターで、「原爆の子の像」のモデルになった佐々木禎子さんの甥で自らも被爆二世である佐々木祐滋さんを迎え、歌と語りで「命」の尊さ平和について考えました。

**「いのち」について考える
〜禎子さんの生き方を通して〜
活動のきっかけ**

佐々木祐滋さんが命の尊さを訴える活動を始めたのは、「父親が行っていたこの活動は、父親がいなくなっ

たら誰がやるのかと思い始めました。また、僕の父親は禎子の兄で、禎子と同じに当時被爆していました。祖父と父から叔母の話は聞いていたが、佐々木禎子の甥としての経歴、体の中には禎子のDNAが入っていると一層身近になり、叔母である禎子を語り、歌を通じて命の尊さを訴えていくきっかけとなりました。

10年ほど前から禎子の曲を作り歌で平和を命の大切さを伝えていこうと思い、現在活動しています。」と話します。

歌に平和を、命の大切さを込めて

佐々木さんが作った「NORI



佐々木さんの曲から「命の尊さ」の想いを感じる生徒たち

**「原爆の子の像」のモデル
佐々木禎子さん**

広島平和記念公園にある「原爆の子の像」のモデルとなった。1945年8月6日。2歳の時、広島市に投下された原子爆弾により被災したが奇跡的に無傷。しかし、避難する時に降ってきた黒い雨にうたれ被爆した。被爆から10年後亜急性リンパ性白血病を発病し、入院中「鶴を千羽折れば、願いが届く」という言い伝えを信じ、生きる希望を鶴に託し鶴を折り続けた。1955年10月、願いむなしく12歳の短い人生を閉じた。将来、体育の先生になることが夢であった。禎子の級友らが「原爆の子の像」の設立を呼びかけ、1958年こどもの日に広島平和公園内に完成。シアトルの平和公園にも銅像がある。



「折り紙」という曲は、佐々木さん自身が12歳の佐々木禎子という女の子になって考えたという。歌詞の内容は、悲しい内容だが、禎子は、入院中、亡くなるまで『痛い』『辛い』『苦しい』『助けて』という言葉を家族や友達には言わなかったという。家族に心配をかけたくなかったから、笑顔を決やさなかった。白血病になり、死ぬのかな、長く生きられないのかなと絶望の中にいてどう考えていたのか。人に言えない分、折鶴に弱音を言っていたのかもしれない。胸の中に抑え込んでいた気持ちを歌詞にしてみました。「この歌を聴いて感じてもらいたいのは、生きたくても

生きられなかった一人の少女 佐々木禎子という女の子がいたということ。今僕たちは、命があるということとをありがたいたいと、当たり前前に生きていくことに感謝してほしい」と。佐々木さんは生徒に語りかけ歌います。

そして、佐々木さんの歌う歌詞やメロディーは、生徒、会場にいる一人ひとりの心に響きます。

禎子が残してくれたメッセージ

『千羽、鶴を折れば願いが叶う』と、千羽鶴の意味を知り、その日から鶴を折るようになった禎子。人間同士の間でたった12歳で亡くなった禎子。

願いを込めて

「今、絶望の中にいて死にたいと思っている人もいるかもしれない。幸せだなと思っている人もいるかもしれない。見えない明日のために一生懸命生きよう。」「本当の平和は心が伴うもの。世界を平和にしていくためには、まず身近なところから争いを無くしていこう。」

「命は、匂いもない、目に見えない、空気のようなもの。無くなつて初めてわかる。」

佐々木さんは、禎子さんの生き方を通して禎子さんが残してくれたメッセージを伝えます。

この講演会を通して、生徒からは、「自分を見つめ直すことができました。」「命について深く考えるようになった。」と感想がありました。

また、佐々木さんへ「みんなの心に響くお話ありがとうございました。佐々木さんの伝えたいことを深く考えたいと思います。」と、代表の生徒からお礼の挨拶がありました。



平和を願い鶴を折ります



生徒から花束贈呈



全員で歌う「ヒロシマの有る国で」

講演会終了後、生徒は、佐々木さんへの手紙を書き、願いを込めて鶴を一羽ずつ折りました。



福岡県福岡市博多区出身のシンガーソングライター。広島平和記念公園にある「原爆の子の像」のモデルとなった佐々木禎子さんの甥で被爆二世。2000年ロックバンド「GOOD BREATH」を結成。「禎子の物語」を語り継ぐため禎子をモチーフにした楽曲を作り、全国の小中学校や各地の平和イベントに参加。

2009年からソロ活動を開始。同年8月26日に禎子の想いを綴った曲「INORI〜折り紙〜」をリリース。

現在、東京でラーメン屋を経営するかたわら、日本全国はもとより、海外にも目を向け活動している。

プロフィール

佐々木 祐滋

1970年6月6日生。